

「まずは自分から」

僕はルーマニア人の母とブラジル人の父との間に生まれました。いわゆるハーフです。僕は小さい頃から父と母の事が大好きで、二人の子どもとして生まれた事に誇りを持っていました。だから自分の外見の事や国籍の事などをまったく気にしていませんでした。周りの友だちも僕の事を特別扱いせず、友だちの一人として接してくれたので、何も困る事なく楽しく生活する事ができていました。正直その時は、人種差別とかいじめといったものがどういうものかという事を知らないくらい楽しい毎日を過ごしていました。

でも、12歳の時に家族の都合で外国に移住すると、その日々は一変しました。外国に移住する前にお母さんは「これから行く国は移民が多い国だから、私たちが行っても必ずやさしくしてくれるよ、大丈夫だよ」と説明してくれていました。いざ行ってみると、そこは全然違っていました。

初めてクラスで顔を合わせた人たちの表情は、日本でそれまでに友だちがしてくれたような温かい表情ではありませんでした。明らかに馬鹿にしたような顔で僕を見てきました。そして、僕がわかるような簡単な英語で、「日本から来た中国人」「自分の国へ帰れ」「私に触れるな」といった言葉をぶつけてきました。自分の事もろくに話していないのに、出会ってすぐに言われました。最初は何が起きたかわかりませんでしたが、「なぜそんな事を言われなくてはいけないのか」「自分の何がいけないんだろう」という思いで、考えれば考えるほど悲しくなってきました。僕の事を人としてではなく、一つの人種として嫌いなんだろうなという事が伝わってきました。この時初めて、人種差別の苦しさ、悲惨さが旨に突き刺さってきました。「同じ人間なのにどうしてこんなひどい事をするんだろう」「もっとありのままの自分を見てほしい」と強く思いました。

結局、学校では一人で過ごす時間が増えました。その方が楽だったし、周りの人が全て敵に見えてしまったからです。ただただ、その時は「自分はなんのために学校に来てるんだろう」というせつない気持ちでいっぱいでした。そして、そういった毎日を過ごしていく過程で、「どうしてこんな事が起こるのか」「どうすれば仲良くなれるのか」という事を考えるようになりました。僕はその時、思いました。最初は相手の外見にとまどう事があったとしても、「お互いが話し、お互いのことを知り、お互いのことを理解し合えれば、どんな人たちだって仲良く絆を深めていけるのではないか」という事を…。でも、僕はそれを実践していく事ができませんでした。まずは自分からやらなくてはいけないという事はわかっている…。毎日、葛藤はしていたけれど…。怖くて勇気がわかず現実から逃げてしまいました…。結局、僕たち家族は、その国を2年で離れ、日本に戻る事になりました。

日本に帰ってからも、その国の事が頭から離れず、「なぜ勇気を出し、自分から話しかけなかったのか」という後悔が消えませんでした。だから僕は、これからの日本での新生活でこんな思いを二度としたくないと思い、「まずは自分から」という姿勢を大事にして多くの人と話してみようと思いました。

僕が入ったクラスは1年6組でした。担任の先生から紹介が終わると、みんな拍手で迎えてくれました。その瞬間、嬉しくなり、ホッとした気分になりました。僕は勇気を出して自分から話しかけました。そうするとみんなたくさん自分の事を話してくれました。「M君は大好きな野球をやっている事」「S君は僕と同じようにサッカーが好きな事」など、たくさん話し、みんなの事を知る事ができました。それを毎日、続けていく事で相手はどういう性格で、どういう人なのかという事を理解していく事ができました。もちろん話していく過程にはいろいろありました。言葉がうまく通じず相手を怒らせてしまった事、自己主張が強すぎて喧嘩した事など…。でもそのたびに話し、相手の気持ちを知り、理解し合えれば心が通じ合いました。僕も許せたとし、相手も僕の事を許してくれました。やっぱり僕が思っていた事は間違いではありませんでした。勇気を出し、自分から話し、相手を知り、理解し合うことをしていけば必ずどんな人ともつながる事ができると確信しました。

僕はこのクラスが、クラスみんなが、そして担任の先生が大好きです。毎日幸せです。「まず自分から」という姿勢を大事にし、「話し、知り、理解し合う事」ができれば、誰もが必ず仲良くなれます。そこには、肌の色や国籍なんて関係ありません。僕はこの教訓を胸に刻み、多くの人たちと触れ合い、これから会う人たちと絆を深めていきたいです。